

ベストピア Bestopia

「パリ通信 93号」

<http://jkoga.com/>

二〇一九年九月
第九十三号

< 2019年9月 >

古賀 順子

「NHK教育『ユーロヴェロ』」

パリ通信6月号で紹介させていただいた「ユーロヴェロ」(ヨーロッパのサイクリングロード)を紹介するNHK教育番組の放送日が決まった。

アムステルダムからスペイン、フランス、イタリアの自転車道を紹介する番組で、10月5日(土) 19:00-20:59 (BS プレミアム)、11月3日(日) 20:00-21:59 (BS4K)。

カディス(スペイン)から南仏を経由し、北イタリアのフェラーラ、コマッキオまで、地中海沿岸のサイクリングロード「ユーロヴェロ 8」をNHK教育が特集する。現地で自転車を漕ぐのは俳優内田朝陽さん。私はフランスでの撮影サポートをさせていただいた。

南仏の撮影は7月下旬の五日間。地中海に近いスペインとの国境ル・ペルチュからイタリアとの国境マントンまで。今年の7月はフランスも記録的な猛暑となり、ディレクター、カメラマン、スタッフの皆さん、全員汗だく、真っ黒に日焼けしての撮影旅行だった。撮影も無事に終了し、どのように編集されているか楽しみである。ドローンなど最新の技術を導入し、画像は素晴らしい。そして、その美しい文化と自然を保護し、今後に伝えていくために何をしなければならないか考える機会になればと願っている。

特に見ていただきたいのが「カマルグ種の馬」と「ヴァンスのロザリオ礼拝堂」だ。

フランスの地中海沿岸の魅力は尽きないが、今回、NHK教育の意向で取り上げられたのが南仏カマルグ地方の白馬である。サント・マリー・ド・ラ・メール市と「カマルグ種の馬を守る会」が共同運営する「マ・ド・ラ・キュール (Mas de la Cure)」という国有の牧場で育てられている30-40頭の馬たち。フランスは1975年「沿岸部保存局 (Conservatoire du Littoral)」という特別機関を設立し、沿岸地帯の保護と保存を目的に、観光開発などによる自然環境破壊を防止する対

策を取っている。カマルグ産の馬はカマルグ地方の文化と深く結びついた大切な動物で保護を必要としている。名前の通りカマルグ地方に生息し、世界でも非常に古い種で、湿地帯に野生の状態で生息していた。カマルグ地方の湿地帯気候に適応し、病気に罹りにくい丈夫な種である。生まれたては黒または栗色で、成長とともに少しずつ色が薄くなり、4年から8年で白馬になる。牡牛、フランミンゴとともにカマルグ地方を代表する三大動物で、カマルグ牡牛の移動(牛小屋、牧草地、水場)、牡牛を追う乗馬用として用いられている。性格が大人しく、丈夫で、順応力があるので、競技乗馬、農作業、観光など広い範囲で使われている。

ヴァンスの「ロザリオ礼拝堂 (Chapelle du Rosaire)」(通称マチス礼拝堂)もぜひ見ていただきたい場所である。南仏の強い光と独特の色を求めて多くの画家たちが集まった。アンリ・マチス (1869-1954)もその一人。ロザリオ礼拝堂は最晩年の作品で、とても小さいが画家の人生を集大成し、マチスとヴァンス聖ドミニコ女子修道会の友情の証しでもある。ロザリオ(語源はいばらの冠)は聖ドミニコ(1170-1221)と深く関わっており、アルビの教会で祈っていた聖ドミニコが聖母マリアから授かったと言われる。マチスは、聖ドミニコの象徴である「白と黒」の法衣を尊重し、白と黒で壁画を構成している。素晴らしいテレビ映像で見ただけの筈だ。白い外壁に青い屋根、小さな十字架を戴く小さな礼拝堂の中でマチスが生涯の創作活動を辿り直した線は、清貧を旨とする聖ドメニコ修道会の魂の祈りに他ならない。今日の礼拝堂は、修道長ベルナデット・ファーブル(マザーシスター)と二人の修道女で守られている。シスターの一人ジャン・ピエール・ラ・ドロワットさんが「日本から多くの方が来てくださるのを待っています」とインタビュー撮影に応じてくださった。

時間に余裕のある方、NHK教育「ユーロヴェロ」をぜひご覧になってください。